

## 第14回 PCV漏えい試験検討会 議事録

1. 開催日時 平成19年10月22日(月)13:30～15:20

2. 場所 日本電気協会 4階D会議室

3. 参加者

委員: 米原主査(関西電力), 安間(中部電力), 臼井(中国電力), 水野(原子力安全・保安院), 矢尾板(電源開発), 西田(北陸電), 大坂(日立), 味森(東芝), 小林(三菱重工), 山田(九州電力), (計10名)

代理参加者: 浦邊(日本原子力研究開発機構), 高田(関西電力), 松田(北海道電力), 三好(四国電力), 石田(日本原子力発電), 荒川(日本原子力技術協会) (計6名)

常時参加者: 谷口(東京電力), 多田(JNES) (計2名)

欠席者: 中川(発電技検), 菅原(東北電力) (計2名)

オブザーバ: 高柳(東京電力) (計1名)

事務局: 古川, 大東, (日本電気協会)

4. 配付資料

資料 14-1 第13回PCV漏えい試験検討会議事録(案)

資料 14-2 第17回原子力規格委員会構造分科会議事録(案)

資料 14-3 第26回原子力規格委員会議事録(案)

資料 14-4 JEAC4203「原子炉格納容器の漏えい率試験規程」改定案に関する書面投票の結果について

資料 14-5 JEAC403の今後の審議スケジュール

資料 14-6 JEAC4203「原子炉格納容器の漏えい率試験規程」改定案に関する書面投票における意見への回答(案)

資料 14-7 原子炉格納容器の漏えい率試験規程(JEAC4203)改定案に対する原子力規格委員会書面投票における反対意見への御回答について(案)

参考資料 飯塚副主査からの退任連絡

5. 議事内容

(1) 飯塚副主査の退任について

飯塚副主査から退任届けが出されたことを参考資料で事務局より説明した。後任は、高柳(東電)を推薦された。米原主査から、次回構造分科会で、高柳氏を検討会委員として推薦することが提案され、了解された。

(2) 高柳(東電)の副主査就任について

米原主査から、高柳氏が副主査に指名された。

(2) 委員定足数の確認について

米原主査から委員の定足数の確認があり、事務局より、委員総数 19 名に対して代理を含めた出席委員数は 16 名で、「委員総数の 3 分の 2 以上の出席」という会議開催の条件を満たしていることを報告した。

(4) 代理参加者及びオブザーバ参加者の承認

米原主査より、上記代理参加者 6 名及びオブザーバ参加者 1 名、常時参加者 2 名の会議参加が承認された。

(5) 前回議事録(案)の確認

事務局より、前回議事録(案)は検討会前に送付していること、及びコメント現在、特になことを報告した。議事録(案)は追加コメントがある場合は事務局に連絡することで、承認された。

(6) 第17回構造分科会の議事録案及びの紹介及び投票結果について

事務局から、第 16 回構造分科会及び第 26 回原子力規格委員会議事録(案)の議事録案により JESC4203 は、規格委員会です承され書面投票に付されたが、反対票が 1 票あり否決されたことを資料 No.14-2, 3 報告した。また、反対票及びコメントについて、資料 No.14-4 で報告した。

今後の構造分科会及び規格委員会で追加説明が承認された場合の JEAC4203 の発行までのスケジュールを資料 No.14-5 で説明した。

(7) 反対票に対する対応について

反対意見に対し、谷口氏から資料 No.14-6 で検討会としての見解案の説明があった。本案は、構造分科会に提出、構造分科会として規格委員会に説明することになる。10 月 9 日に反対票を入れられた神田委員に対し説明したがコメントがあり、再度 10 月 18 日に説明した(資料 No.14-7) 神田委員からメンテナンスしていない MSIV のデータでも単一故障を考慮する低減係数が妥当であることを説明するようコメントあり、説明を追加しているとの説明があった。以下に議事を示す。

(C; コメント, A; 回答)

C1; 重政委員からの安全率に関するコメントは、“単一故障を考慮する低減係数は、計算上の 0.016 を 0.05 単位に丸めたため、結果として 3 程度の安全率になった”のが事実であり、回答をその趣旨に修正する方が正しいのではないか。

A1; 了解した。修正する。

C2; 辻委員のコメントの回答が抜けているのではないか？

A2; 抜けている。回答に追記する。また辻委員からのコメントは、誤記についてなので編集上のミスとして修正する。

C3; メンテナンスしていない MSIV のデータの右端は、2.5%/day(MSIV) ~ になっているが上限はいくつか？

A3; 10.0%/day(MSIV) である。10.0%/day(MSIV) を超えると起動できない。

C4; 10.0%/day(MSIV) は PCV 漏えい率に直すといくらになるのか？

A4; 単一故障を考慮する低減係数 0.05 を超える。しかし、実際の測定データは 2F-3 の第 13 回の 7.81%/day(MSIV) で PCV 換算では 0.05 以下である。

C5; 説明は、実際の最大測定値で説明する方が、誤解がない。

A5; 了解した。考慮する。

C6; データの横軸は、他のデータと合わせて MSS の換算値に合わせる必要がある。また、メンテしていない MSIV のデータは、“過去の最大値を取ったとしても、PCV 漏えい率換算で…”とすること。

(8) 11月2日の構造分科会での対応及び12月5日の原子力規格委員会の対応について

本日の検討会のコメントを反映し、幹事から各委員に修正案を送付し確認していただき、次回構造分科会及び原子力規格委員会に説明することになった。構造分科会及び原子力規格委員会での対応は、主査及び副主査に一任することになった。

(9) その他

今後の構造分科会及び原子力規格委員会の対応は、大きな問題が発生した場合に検討会を開催するが、それ以外については、主査及び副主査に一任することで了解された。

以上